

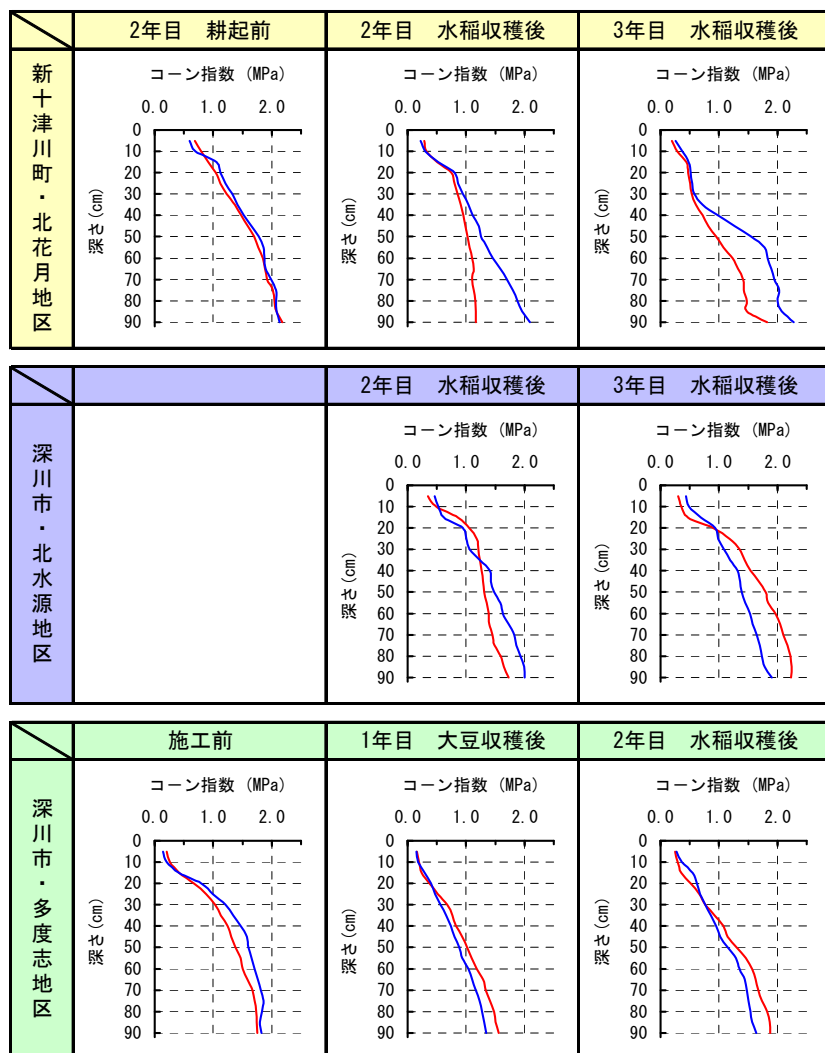
## 技術データ 3.地耐力の経年変化

反転均平工法を実施した北空知管内のほ場において、ほ場の地耐力を測定し、施工後の地耐力の経年変化について整理した（図-26）。

地耐力は、ほ場の深さ方向の貫入抵抗を表した数値（コーン指数）のことで、主に作業機械の走行性を判断するために利用されている。

調査を実施した各ほ場とも、工法に関係なく、深さ30～40 cmまでの平均地耐力は同じような値となった。一方、下層での地耐力に差がみられる場合もあったが、従来の心土であることから、工法の違いがもたらす差では無いと判断される。

このように、施工後1年以上が経過し、ほ場での作付も変化しているなかで、工法間での地耐力の差はみられなかった。



図の凡例  
— : 反転均平工法での地耐力測定値  
— : ブルドーザ工法での地耐力測定値

※深さ40 cm以下は現況の心土に相当するため、工法による差ではありません。

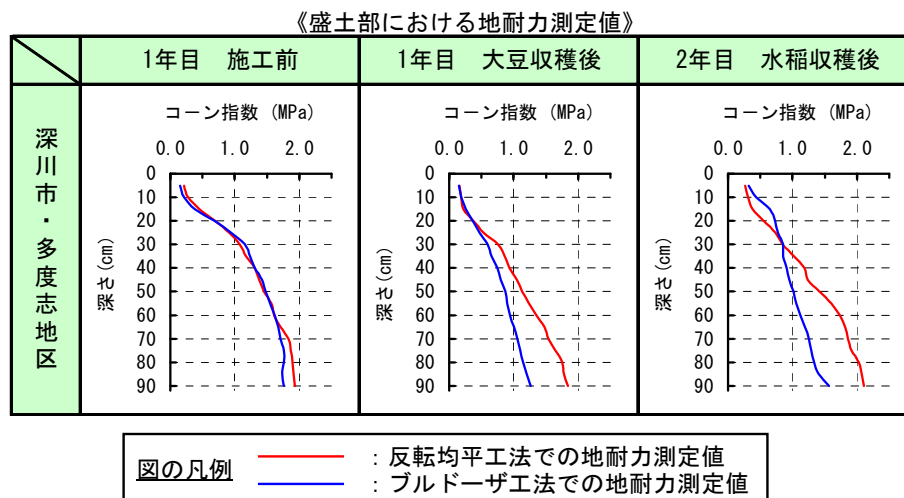
図-26 代表ほ場における地耐力調査結果

深川市・多度志地区における盛土部での地耐力調査結果を整理した。

工法に関係なく、深さ 30 cm までの平均地耐力は同じような値となっている。

当初、反転均平工法では基盤面（心土上面）を作業機械が直接走行しないことから、特に盛土部の基盤の安定性悪化に対する懸念された。

しかし、今回の調査結果から、反転均平工法の盛土部地耐力は従来工法（標準切盛工法）の盛土部と同程度の値を示したことから、基盤の地耐力は確保されていると考えられる。



※深さ 40 cm 以下は現況の心土に相当するため、工法による差ではありません。

図-27 深川市・多度志地区における盛土部での地耐力調査結果

表-6 地耐力の指標値 (0~15 cmの平均値)

走行性判定	トラクタ(耕うん) ゴム車輪	コンバイン(収穫) セミクローラ
走行容易	0.39MPa以上	0.29MPa以上
走行やや難	0.29MPa~0.39MPa	0.20MPa~0.29MPa
走行難	0.20MPa~0.29MPa	0.10MPa~0.20MPa
走行不能	0.20MPa以下	0.10MPa以下

※農業土木学会：土地改良事業計画設計基準 計画 ほ場整備(水田) p.209 (2000) より引用